



尚 操



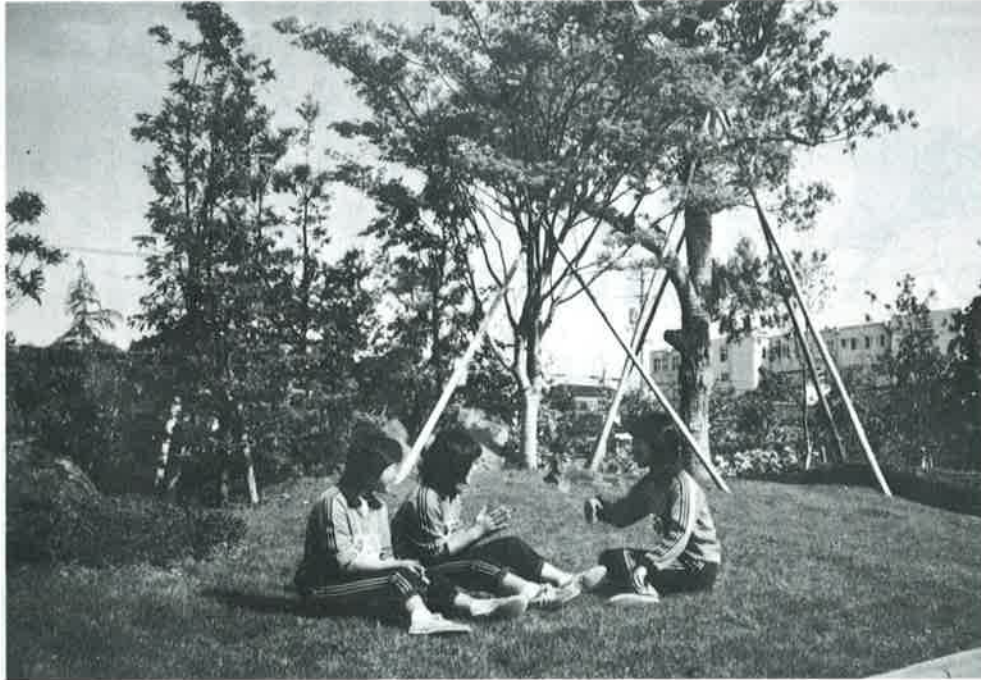
〈発行所〉

鳥取県立倉吉西高等学校
尚操会

〒682

鳥取県倉吉市秋喜20
倉吉西高等学校内

印刷 (有) 矢積印刷



生徒憲章をもとに 新しく前進する母校

今年度、倉吉西高は、また新しい決意で内面的充実にもむかって前進します。七十周年記念の植樹がしっかりと根を張るように、全ての生徒・父母・教職員の違いをこめて制定された生徒憲章が、ゆるぎない校風をつくるよう今日も努力を続けます。

この学校の校門に入ると大きな石碑に「立志」の文字が刻まれているのが目に入ります。昭和五十五年の卒業生が後輩に心をこめて贈ったものです。

生徒憲章の最初の章も「私は志を立て、目標にむかって全力を尽します」と宣言しています。

自分の正しい目標への意志を誠実に持ち続けること、変らない忠実さを「操志」一貫といえます。尚操会とは、そうした強い操志を尚(たつと)ぶ人の集りであるという新しい意義を確認したいものです。

もう一つ憲章の中心の理想は自覚ということですが。

憲章に「私は自由を尊び、言動に責任を持ちます。」とあります。他人から指図され、強制されて無自覚に規則を守るのではなく自分の良心から自分を律する本当の大人になってこそ、国際社会に働ける二十一世紀の日本人の資格があります。卒業生・校友の皆様方のご理解とご援助をお願いします。

花・水・木

▼潮風のなつかしい季節となつてまいりました。夏休みも近づき、学校も忙しいことでしょう。▼七十周年の記念植樹は、本当にいい事業をして下さいました。亭々とした木立の中の学園を、とても楽しみにしております。▼さて、この「尚操」という機関紙のふた文字と向き合いながら、何と重くて暗いのかとおどろいています。そして、今の学生が、それについてどんなとらえ方をされるのか考えてしまいました。▼少なくとも、当時の女学校では本当の意味の「操をたつとぶ」ということは学びませんでした。ただ、家制度をもとにした男女差別で、女の「貞操」を一方的に縛りつけていたにすぎません。▼ところで、いまの生徒さんが、自分を表現する「生き方」として「操をたてる」ということをどこまで真剣に考えられているのでしょうか。学校教育が、どこまで責任を感じていられるのか、大変不安です。▼地球人として、外国の人々と共に生きていくことを考えるとき、「己を知る」節操を守り通す勇気を持たなければ、国は自滅の方向をたどるしかありません。愛するということは辛いことです。

(倉女三十三回 金沢瑞子)

活力ある母校へ協力を

道祖尾副会長 (西高第一回生)



同窓生だより

母校の思い出

三谷 昇 (西高十九回)

私に、「本当に楽しかった高校時代がある。」と言わしめる母校がここにある。うれしいことである。西高を卒業して、もう十五年。歳も三十をこえた。

思い出は、時と共に楽しいものになって行くとは聞いていたが、今から考えれば、本当に楽しい事が多かった。旧校舎で入試を受けた時、男子用トイレは一つも無く、職員用のトイレで先生方と顔をつき合わせてやったこと。(入学後

も続いたが…) 恩師天下先生の尽力で、男子の運動部(軟式野球部)を創設したが、グラウンドが狭く皆成学園まで行って練習したこと。

西高祭を成功させようと、旧尚操館での徹夜の討論。その学園祭に、他校の男子生徒を参加させるかどうかで、杉谷校長に心配をいだき、校長室での話し合いを持ったことなど。どれ一つを取ってみても、まじめに悩み、考えたものであった。まさに「青巻」であった。

私は今、小学校の教師をしているが、教師になろうと考えたのも高校時代であった。多くの先生との出会いと生徒会クラブを通して、できれば母校の教壇に立ちたいと考え進学した。その夢は、は

たせなかったが、今でもあらゆる場面で母校を通しての人とのつながりに感謝している。中島会長さんには、無理な講演のお願いをして一つ返事で受けていただいたこと。道祖尾副会長さんには、職場のPTA会長として、又、山根怜先生には国体バドミントンでお世話になった。土井公夫先生には、職場の先輩として教師の生き方を学んだ。

西高に係わる人々の中で、自分を大きくさせていただいた分だけ、これからの自分がどう母校に返して行くのが、問われる歳となってきた。「西高時代の熱い思いをどう伝えるのか。」なかなか難しいことである。

暮らしを考えた勉強を

勉強を

永見 裕子 (西高七回)

自分が何回の卒業生か分らないくらい、ご無沙汰の卒業生です。しかし、身近かに中島会長の西高への思いや活動を聞きながら、若い人を育てるにはこういう役割もあるのだと思うこのごろです。

私は消費生活センターに勤めています。ある時、西高の先生が食品添加物のことなど熱心に調べに何度か来られました。そして当センターより文化祭に出かけ、清涼飲料水のテストや食生活の話をしたことがあります。その後も着々

と食生活のこと、身体のことを生徒と共に勉強され、冊子にまとめられたと新聞でみました。生徒たちは、どんなにかいい勉強をしたことでしょう。

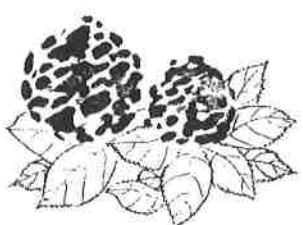
消費生活センターに働いているので、消費者教育の必要性をいつも思うのです。世の中ほとんど変わっているのに、世の中の動きをキャッチし、生活していく上に欠かせない勉強がなぜなされないのだろうと…世の中すごいスピードで変わっています。たえず情報をキャッチして暮らす姿勢、行政のしくみ、くらしの法律、親としてのものの考え方など…そんな授業があってほしい気がします。今、高校は子ども達が社会人として、大人として、社会に出ていく最終

の学校になっています。数学や化学のむずかしい定理を憶えるのも大事なことでしょうが、何かもつと生きていく上に必要なものがあるような気がします。そういう意味で西高は、世の中の変化に反応した授業、とりくみがなされつつあるのかな、変わりつつあるかなと期待しています。

西高時代、思い出に残っていることは、抜け出して映画をみに行った、水道山に上って弁当を食べたりしたこと、運動会の仮装行列にがんばったことなどです。人の生きる力なんて、そんなところから湧いてくるものじゃないかなと思っています。

創立七十周年記念事業により環境整備が行われ見違えるような学校になりました。校章を高くかかげた塔を入ると緑の歩道を歩きながら校と「はなみずき」のある大きな前庭を眺めることができます。中庭には「とち」の樹を中心に、「しらかし」が配され美しい景観となりました。

今、西高は新校長のもとで新しい西高づくりが行われています。教育方針も「生徒憲章の精神の理解を深めその主旨の徹底をはかる」という自主独立の人間を育成する方針が打ち出されております。管理体制の教育からは活力のある人材は生まれなれないと思います。生徒憲章の精神を生かし、自由な校風を樹立し、西高が内外共にすばらしい学園であってほしいと願っています。



尚操会短信

阿部 郁子 ソプラノリサイタル

アザレア音楽祭がオープンして数日後に、シティホテルで催されたリサイタルは、コーヒープレイクをさきみ、和やかな雰囲気でした。創立七十周年演奏のあてやかな歌声が耳に残っていますが、今回も前半がイタリア歌曲と迫力あるオペラリア、後半は情感溢れる日本歌曲でプログラムもバラエティに富み、清礎なステージ姿と美しい歌声に魅了されました。横浜では三つの合唱団指導や独唱、合唱アンサンブル発表と活躍されているようですが、倉吉でもバツハのカンタータ等も是非聞いて頂きたいと語っておられ、在学時から的前向きな姿勢に感銘しました。御主人とのデュエットが実現することを楽しみにしています。

(河口節子)



夢の味

石原 鈴恵
(西高二十二回)



去年の十月から乗馬を始めた。といっても、八か月間の騎乗量、僅か二十一鞍という怠慢ぶり、馬を愛する多くの人に申し訳なく、「趣味です」などは、とても言えない。ひと月平均二、三時間のレッスンがせいぜいの、永遠のビギナー候補である。

「馬に乗る」ということは、子供の頃から憧れているもののひとつだった。馬という美しい生き物を、離れた場所から眺めているのも好きだが、その背にヒラリと跨がって、野山を駆ける姿には、より心ときめく。言葉でコミュニケーションのない相手と、友だちになる事への願望が強かった。いつでも行動を共にする小鳥、犬とりわけ一緒に走ることでできる馬には、魅力があったのである。それは、いつのまにか、どこかに

しまい込まれていた思いだったが、何かのきっかけで、ある日、ふと甦ったのだった。幼い頃の夢を現してみたくなり、とりあえず、乗馬クラブに入会したのである。

夢が実現する。少なくとも形としては近づく、ということとは、意外性を伴う。あたりまえかもしれないが、「やってみなけりゃわからない」感覚だ。こんな筈じゃなかったな、と思うことの方が多い。甘いつもりの夢の中味が、しょっぱかったりする。馬の背中が、あんなに座り心地の悪いものとは知らなかった。二時間やそこらの運動で、翌日は筋肉痛に悩まされる(原因は私の怠慢にあるけど)。

草原を駆け抜けるなど、もう、いつのことになるやらわからない。でも、その「しょっぱさ」が、新鮮に思えてくるから不思議である。私は現在、下手な絵を描いて生かしている。これも、子供の頃からの夢のひとつだった。この夢も、実はずいぶん苦い味だったんだと気づいたが、食べる前の想像だけでよかったのに、とは思わない。

やっぱり夢は叶った方がいい。こんな筈じゃ……と、しかめっ面するのがいい。乗馬も仕事も、まだまだしかめっ面のしどおしで、今に人相が変わるのではと、怯えることもしばしばだけど、そのうち、結構美味であると思える瞬間が来ると信じている。

(画家、カットは筆者)

ごあいさつ

学校長 高多 彬 臣



会長さんはじめ尚操会の皆様の熱情あふれるご尽力を頂き、前校長ともども心から感謝申し上げます。本年度より私がバトンを継承し、永い間同僚として信頼してきた青目正新教頭はじめ全職員協力一致して本校教育にあたります。

私は前校長とともに描いた夢をさらに大きく実現し、本校の特色を鮮明にしたいと考えますが、特に生徒憲章の精神を徹底させ、ひとりひとりの生徒が西高に学んでよかったと心から母校を誇れる学園にしたいと強く念願しています。今年度から生徒会の体育・文化の各部活動の強化激励のため、後援会についても、特に同窓の諸兄姉の組織的なご援助を広くいただくことになりました。

全国一万三千余の卒業生校友の皆様、なお一層のご鞭撻・ご支援を母校後輩の上にお願ひ申し上げます。

この四月、入学式のと何人かの新入生のお母さんから挨拶をいただきましたが、その殆んどは私の西高最初の十年間時代の教員の方でした。丁度三十年前、新米の教師として赴任した本校に、今度は校長を命ぜられたことに深い感慨と強い責任を感じています。

四年前、松本重徳校長の赴任以来、本校は地域の父母校友の期待に応え「活力のある人材の育成」を目標として、多くの積極的施策を行ってまいりました。創立七十周年記念の「学園を緑でつつむ」環境整備事業はじめ英語コースの設置と国際理解教育、大学入試実績の向上をはじめとする進路の飛躍の拡大、ふるさとラリーや養護学校との交流の拡大による地域に根づいた福祉教育など全力で取り組んできました。

その間、特に募金事業では中島



学園短信



野球部

今、野球部は甲子園に向けて猛練習を... 力が走ります。これは、硬式野球部が創部して以来、続けていま...

いま西高も年々男子生徒が増え、男女の差はほとんどなくなり、野球部員の数も非常に多くなり倉北に次ぐ人数にまでなりました。

生徒会部

だより



陸上部

我々は、五月三十日から三日間、昨年わかとり国体の開催された布勢陸上競技場で熱戦を繰り開けました。三日間晴天に恵まれ、気温も高すぎることなく、絶好のコンディションの下、昨年一昨年、あと一歩で涙を飲んだ男子一六〇〇メートルリレーなど男女五種目で入賞、延べ人数十名を六月中旬に山口で開かれる中国大会に送り込みました。

あと一歩で惜しくも入賞を逃がした者、思わぬアクシデントに涙を飲んだ者もありますが、みんな悔いを残すことなく、走り、跳び、投げ、応援し、爽やかな感動を得ることができました。

中国大会に出場した選手は今回は県代表として全国大会を目指し、そして残された一、二年生は来年の大会を目指して練習に取り組んでいきたいと思ひます。(陸上部)

国立立大合格者11名 念願の2ケタの台に

60年度は本校進路指導にとつて画期的な年でした。とりわけ国立立大合格者が11名と念願の2ケタにのり、4年制私立大の合格者も76名を数えました。これは本校の進路保障体制が定着しつつあることと考えます。

また私立短大でも同志社女子短大・平安女学院短大・関西外語短大など37名、国立立短大では鳥取大医療技術短大・島根女子短大など11名、医療関係では鳥取赤十字看護学校など27名が合格しました。そして特筆すべきは本年度、倉吉東高・城北高校専攻科の進学者それぞれ16名・18名を含め計50名の浪人生が来春を期して頑張っています。今や著名国立立大合格者の8割は浪人生といわれいますが、本校生の志望も高くそしてその決意も強くなってきたことを示しています。

ところで昨今の国立立大を中心とする入試制度改革でマーク形式の共通一次試験から記述中心の二次試験へと重点が移っています。試験内容も基礎学力はもとより、応用力・表現力が強く要求されてきました。そして私立大を含めてますます多様化する入試制度に対応し得る進学位制づくりが急務となっております。

そこで係としては本年度、模擬試験・課外・勉強合宿・面接指導等に全面的な見直しを行っています。特に勉強合宿については各学年での目標や位置づけを明確にしながら3年間の一貫性を持たせたいと考えています。又面接指導についても進路指導の基本は生活指導であることを再確認するなかで生徒の自己理解の啓発にあたっています。そして生徒一人一人の志望と学習目標を毎日の授業と家庭学習に生かすべくきめ細かな指導を継続したいと思ひます。(進学主任 岡本 康)

昭和61年度尚操会 総会ごあんない
とき 8月24日(日)10:00
ところ レストラン富士
会費 ￥2,000

あとがき
生徒憲章をもとに、新しい西高づくりがなされています。古い伝統を生かしながら新しい西高の伝統の息吹が感じられます。
先般は生徒会活動の発展を期すために、尚操会、PTA、野球部
(副会長 高橋博子)

就職 (昨年度の状況)

昭和六十年度の就職状況はきびしい社会情勢の中でも、前任者の河井先生の御努力で百分の決定をみることができました。今年度はより困難さが増すものと考えられますが鋭意努力していきたいと思ひます。昨年度の就職先は次のような状況でした。(就職主任 西谷)

昭和60年度 卒業生就職先

Table with multiple columns and rows listing graduation schools and employment destinations for the 60th graduation year.

OBの三者の役員会を開き募金活動することになりました。同窓会の皆様方のご援助をお願い致します。
花木木の金沢さん、大阪で活躍の石原さん、そして原稿をいただいた皆様、本当にありがとうございました。
(副会長 高橋博子)